

## 要 約

試験委託者

環境省

表題C. I. ピグメントブルー 29 のオオミジンコ (*Daphnia magna*) に対する繁殖試験試験番号

A060065

試験方法

本試験は、OECD Guideline for Testing of Chemicals 211 (1998) “*Daphnia magna* Reproduction Test” に準拠して実施した。

- 1) 暴露方式 : 半止水式 (毎日試験液の全量を交換)  
水面をテフロンシートで被覆
- 2) 暴露期間 : 21日間
- 3) 試験濃度 (設定値) : 対照区, 10.0, 18.0, 32.0, 56.0, 100 mg/L (公比: 1.8)  
被験物質は難水溶性の無機化合物であるため、分散状態の試験液を用いて実施した。また、水性画分を用いた追加試験を実施した。

追加試験 (負荷率<sup>\*1</sup>) : 対照区, 100<sup>\*2</sup> mg/L

<sup>\*1</sup> Loading rate : 水性画分 (W A F, Water-accommodated fraction) の調製の際に用いられる被験物質と水の重量対容積比

<sup>\*2</sup> 試験上限濃度での限度試験

- 4) 試験液量 : 80 mL/容器
- 5) 連数 : 10容器/試験区
- 6) 供試生物数 : 10頭/試験区 (1頭/容器)
- 7) 試験温度 : 20±1℃
- 8) 照明 : 室内光, 16時間明 (800 lux以下) / 8時間暗
- 9) 分析法 : 誘導結合プラズマ質量分析 (ICP-MS)

## 結 果

## 1) 試験液中の被験物質濃度

分析の結果、測定値の設定値に対する割合は、試験液調製時において 91～101%、換水前において 1～76%であった。試験液中で被験物質が徐々に沈殿したことにより、24 時間後の試験液中層の濃度が減少したものと考えられる。

また、水性画分を試験液とした追加試験における測定値は、試験液調製時において 0.105～0.125 mg/L、換水前において 0.085～0.136 mg/L であった。

## 2) ミジンコの観察結果

暴露期間中のミジンコの観察結果を付属資料－5に示す。濃度区のみジンコの腸や体表に被験物質が観察され、被験物質の粒子に起因すると推測される物理的影響（摂餌障害や付着による影響等）が認められた。

## 3) 21日間暴露後の結果

	(mg/L)	95%信頼区間 (mg/L)
親ミジンコの半数致死濃度 (LC50)	>36.7	算出不可
50%繁殖阻害濃度 (EC50)	34.4	32.8～36.4
最大無作用濃度 (NOEC)	25.9	—
最小作用濃度 (LOEC)	36.7	—

## 4) 追加試験における21日間暴露後の結果

	(mg/L) [ 負荷率 ]	95%信頼区間 (mg/L)
親ミジンコの半数致死負荷率 (LL50)	>0.110 [ >100 ]	算出不可 [ 算出不可 ]
50%繁殖阻害負荷率 (EL50)	>0.110 [ >100 ]	算出不可 [ 算出不可 ]
最大無作用負荷率 (NOELR)	>0.110 [ >100 ]	—
最小作用負荷率 (LOELR)	>0.110 [ >100 ]	—